

訪問日程

- 7/21 **木** 本 関西国際空港→ホーチミンシティ国際空港→
シュムリアップ国際空港着
◎市内観光
- 22 **金** ◎キリング・フィールド→アキラ地雷博物館
→伝統の森
- 23 **土** ◎伝統の森に暮らす子どもたちが
通う学校へ見学に
（書道や遊びの異文化交流！
夜は一緒に夕食を作り、互いに踊りを
披露してお別れ会。。）
- 24 **日** ◎伝統の森とのお別れ後、アンコールトムや
グレール遺跡を観光。
シュムリアップ国際空港にて搭乗手続き
- 25 **月** 本 帰国

ますが、カンボジアは電気も水道も十分に
ない。道路の整備も行き届いていない。学
校に行けない子どももたくさんいる。でも、み
んな笑顔で親しみやすい。勉強もスポーツ
も大事だけれど、優しさや思いやりとか、
人として根本的に大切なことがあるので
は。そんな事を感じて欲しかった」と熱く
語る久保さん。「さらに、カンボジアは
1970年代から約20年にも及ぶ、激しい
内戦で多くの国民を失った国。凄惨な過去
があるにも関わらず、人々は新しい国を自
分たちで創ろうと前向きに明るく生きて
いる。戦争の歴史も知った上で、現地を見
て欲しかった」と、久保さん自身が感じた
ことを振り返るように、答えてくれた。

今回参加したのは池田市の中学生16名。
「授業で習った事やテレビで見た事が本当
なのか、カンボジアがどんな所か知りたく
て……」。参加の理由はそれぞれ。出発前
には勉強会と懇親会を開催。カンボジアの知
識とメンバー同士の交流を深め、7月21
日、『関西国際空港』から出発した。

文化の違いには驚くことばかり
国際交流で得た自信と喜び

到着日は市内観光。ここで早速、食文化の
違いに直面。夜店に並ぶ昆虫食、香辛料を
使った味づけ。慣れない味には流石に渋い
顔。「米の炊き方まで違う、日本食が恋しく
なった」等、後の報告会では、ほとんどのメ
ンバーが「食文化の違いに驚いた」と述べて
いる。翌日は内戦の爪痕を残す「キリング・
フィールド」や「アキラ地雷博物館」へ。実際
に目にした悲惨さに、その重みに、言葉に表
せない感情を抱いたことだろう。

そして、『伝統の森』へ。内戦で失われつつ
あったカンボジアの伝統織物を継承するた
め、日本人の森本喜久男氏が築いた森だ。こ
こは村人100人ほどが暮らし、織物の生
産に携わっている。シルクの染色体験、小学
校訪問、縄跳びやサッカーで遊び、夕食を一
緒に作り……。2泊3日、多くの時間を現地
の子たちと共に過ごした。「言葉は通じなく
ても身振り手振りで分かり合えた」。国境を
超えた交流に、メンバーは喜びと自信を感
じたようだ。電気もない、シャワーは水、虫



1「日清食品ホールディングス株式会社」、一般財団法人
いけだ市民文化振興財団の厚意により「チキンラー
メン」21箱をお土産に 2夕食に日本のカレーと一緒に
作ったり、魚のスープなど、現地の料理も味わった

巻頭特集

池田の子どもたちが“世界はもっとおもしろい”を体感！ カンボジアプロジェクト



『一般社団法人 池田青年会議所』と『一般財団法人 いけだ市民文化振興財団』の主催で実現したプロジェクト、

「集まれ未来の主役たち」～世界はもっとおもしろい～ in カンボジア。

2003年・2008年に続く第三弾となる今回は、池田市の中学生 16 名が 7 月 21 日～25 日の 4 泊 5 日、カンボジアを訪ねた。

現地での生活、異国の子どもとの交流……。様々な体験を通して、メンバーはどんなことを感じたのだろう。

がたくさん……。不便に思うことが多々
あった。しかし、日本と大きく異なる環境や
価値観を、身を持って知り、得た経験は一人
ひとりの心に刻まれ、将来の糧となる。

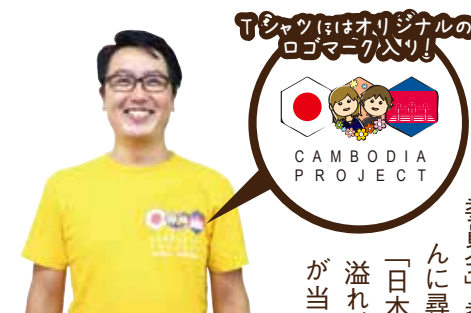
それぞれの言葉で綴る報告会
カンボジアで感じた様々な思い

去る 8 月 21 日、『池田市民文化会館』に
て「カンボジアプロジェクト」の報告会が
行われた。思い思いに書いた用紙を握り
しめ、発表するメンバーたち。「電気が制
限されていて驚いたけれど、星がすごく
綺麗で感動した」「貧しくて、どんな環
境の中でも、笑顔で協力して生きていけ
たら幸せなんじゃないかな」。その一言一
句から、カンボジアで過ごした日々と誠
実に向き合い、懸命に言葉を紡ぐ様子が
ひしひしと伝わってきた。

保護者の方に、帰国後のお子さんの様
子を探ねた。「帰ってからの第一声が『楽
しかった、また行きたい！』と。普段は不
愛想ですが、素直な感想に良い経験をし
てきたな、行かせて良かったと思います
た」。一回り遅しになった様子に顔をほこ
る。発表後は、『伝統の森』の力にな
れないかを話し合った。「募金活動をして
役立つ物を買って
送ってみては？」。
自発的に提案する
姿は希望に満ちて
いる。彼等、彼女等
の未来は、カンボジ
アで眺めた青空や
星空のように輝い
ていることだろう。



思い出の写真にコメントを書いて展示パネルを作成



国際プロジェクト委員会委員長
久保和之さん

「自分たちが体験したことを学
校や家で話して欲しい。発信す
ることによって、周りが興味を
持ち、また別の子に広がる。それ
も国際交流の 1 つじゃないかな」

「これから未来を背負って立つ子どもた
ちが平和を維持するには、他国との交流が
大切」。『一般社団法人 池田青年会議所』第
54 代理事長・松本健一郎さんは、「世界平
和への思いをこのプロジェクトに込め
た。『世界の中の日本を知ること、自身の
環境への感謝を抱いて欲しい』という願い
もでは、なぜ国際交流の場がカンボジア
だったのか。同会議所「国際プロジェクト
委員会」委員長の久保和之さ
んに尋ねた。



一般社団法人 池田青年会議所
第 54 代理事長 松本 健一郎さん

「多感で幼い時期に、他国との交流を通じて、相互理
解をしながら争いや紛争をなくしていく。お互いに
話し合いで解決したり、何かあった時には「地球市民
意識」を持ってもらいたいという思いがありました」

子どもたちの未来を豊かに
する相互理解・異文化交流

森本さんのように海
外で活動する方
の様々な苦勞を知
り、もっと応援し
てあげたいと思
いました

どんな環境の中
でも協力して生
きていけたら幸
せなのかなと思
いました

食文化の違いに
驚きました。い
ろんな場所に行
けて良かったです

現地の子と一緒に
歌ったり、冗談を
言ったり、学
校訪問での出来
事や心に残って
います

誰に対しても優
しく接し、いつも
明るく笑って
いるところ、人
の良さがカンボ
ジアの魅力だ
と思います

カンボジアの子
と遊べたのしか
た！日本にいら
ず想像できなかった
体験ができました

伝統の森の人は
笑顔が多かった。
不便でも笑顔の
多いカンボジアは
いいなと思いました

働いている子
どもも裸足で服
もボロボロだっ
たので驚きました。
でも貧しくて元
気なのは日々笑
顔を絶やさない
ようにしている
からだと思います

貴重な体験を
させてくれた家
族に感謝して、
これからの生
活に活かしたい
です

カンボジアの子
どもは細くて背
も小さく、日本
と比べて思っ
たより可愛く
感じました

シャワーが冷た
かったり、不
便で嫌に感じ
たことあるけ
れど、夜、空を
見たら星が
綺麗で感動し
ました

日本では当
たり前の日常
が、カンボジ
アでは違うこ
とばかりで驚
きました。みな
さんで一緒に
過ごせたのも
いい思い出で
す

電気があまり
使えず不便
でしたが、帰
国して毎日の
生活を大切に
しようと思
いました。日
本では見られ
ない綺麗な
景色に感動
しました

便利な新しい
物ではなく、
今ある物を
工夫して使
うのも大事
だと気づき
ました

クメール語は
難しかった
けれど、現
地の子ども
が名前を呼
んでくれて嬉
しかったです

日本とは全
然違う環境
を体験でき
良かったです。
カンボジ
アの伝統
の踊りが
印象的
でした

山田 有輝さん

朝見 真輝さん

山中 麗哉さん

橋本 愛生さん

岡本 凜さん

村上 ひかりさん

瀬田 心結さん

山西 友貴さん

松家 詩栄さん

金岡 菜冬さん

朝倉 萌絵さん

下村 飛月さん

牧野 賢志さん

池野 純さん

島田 采季さん

立石 歩さん